


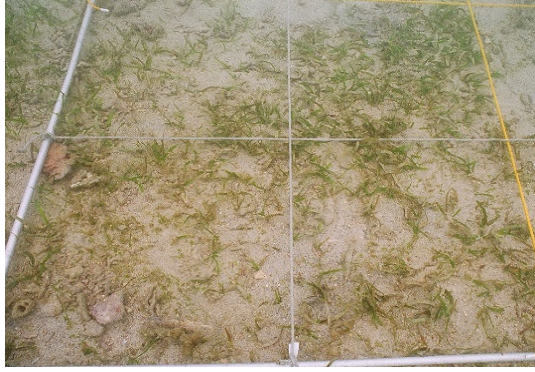

海草藻場の被度

海草藻場調査における被度は、生育海草が一定面積の海底面を覆う割合であり、上方より俯瞰して観察する。

定点調査においては、観察枠を設置（下図参照）し、枠を目安として生育割合を決定する。一方、マンタ法等の枠を用いない分布調査では、一定サイズ（5m×5m や 2m×2m）の枠を想定し、当該枠内における生育割合を決定する。

調査の際は、葉体が覆う海底面積を判定するため、明瞭に露出している海底面積を生育域（範囲）から差し引いた面積の割合が被度に相当する。このような視覚的基準を調査者に統一した認識として共有させることにより定性的な個人差をなくしている。

例． 1 m × 1 m 枠内における海草類（主にリュウキュウスガモ）被度

被度区分	海底状況
<p>10%未満</p> <p>非生育域（砂面）が枠全体にひろがっている。</p>	
<p>10～20%</p> <p>非生育部分が枠全体的にみられる。</p>	
<p>20～30%</p> <p>非生育部分は枠全体にみられるが、葉体が伸長し、パッチ状である。</p>	

海草藻場におけるコモンサンゴ属の混生状況

海域改変区域西側の海草藻場において、被度の比較的高い生育域ではコモンサンゴ属が海草と混生する特徴的な地域が存在している（下図赤枠）。

